

# 第1回 上井出小学校のこどもたちの未来を考える協議会 議事録

○日時 令和8年2月16日（月） 午後7時から8時4分まで

○会場 上井出区民館

○出席

## 【委員】

渡邊 賢一	会 長	太田 雅人	副会長	内野 裕太郎	委 員
佐野 千春	委 員	高見 亜希恵	委 員	赤池 龍記	委 員
芦澤 秀典	委 員				

## 【事務局】

望月 俊伸	教育長	石川 佳和	教育部長
佐野 浩市	教育総務課長	斎藤 治	学校教育課長
佐野 達也	学校教育課参事	植松 弘美	教育総務課主幹兼総務係長
土橋 彦六	教育総務課総務係	中村 日出和	教育総務課総務係

○次第

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 自己紹介
- 4 会長及び副会長選出
- 5 議事
  - (1) こどもたちの未来を考える協議会の進め方
  - (2) 上井出小学校の再編に関する教育委員会からの提案
- 6 次回の予定
- 7 閉会

## ○会議内容

### 1 閉会

### 2 教育長挨拶

(教育長)

上井出小学校のこどもたちの未来を考える協議会の開催にあたり、教育委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

はじめに、本日御出席の皆様方におかれましては、御多用のところ本協議会の委員をお引き受けくださいます。誠にありがとうございます。また、日頃から上井出地区のこどもたちを温かく見守り、支えてくださっている保護者の皆様、地域住民の皆様に、心より感謝申し上げます。

上井出小学校は、雄大な富士山の麓で、「目標をもって、考え合い、認め合い、挑戦する子」という学校教育目標に向かって、地域とともに歩み、これまで多くの卒業生を送り出してこられました。これまで先人の皆様がこの学校に寄せる愛着と、これまで注いでこられた情熱は、私たち教育委員会としても十分に承知をしているところでございます。

しかしながら、現在、少子化の進行により、これは富士宮市だけの問題ではございません。全国的に少子化が非常に大きな課題になっておりますが、本市全体としましても、児童生徒数の減少が進んでいるところです。

これからの社会の担い手として、予測困難な時代にこどもたちが羽ばたいていくために、学校において、こどもたちが集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になると考えています。そのためには、一定の規模の人数を確保していくこと、つまり学校の統合は避けては通れない課題であると、私どもは認識しております。

本協議会では、昨年及び今年に開催した意見交換会の状況や今後の児童数の推移などを踏まえて、未来を見据えた小学校の再編の方向性について議論をしていただきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、上井出地区のこどもたちにとってより良い教育環境とは何かを念頭に、議論していただくことをお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 自己紹介

**委員及び事務局の出席者が自己紹介を行った。**

### 4 会長及び副会長選出

**選出について、事務局案を提示し、これが承認された。**

(教育部長)

協議会の会長につきましては、上井出区長であり、上井出小学校にボランティアとして携わっていただいております渡邊委員に、副会長につきましては、保護者の代表ということで太田委員に御就任いただきたいと考えております。(委員の拍手をもって承認された。)

(教育総務課長)

ここで会長と副会長に一言ずつご挨拶をいただきたいと思います。

(会長)

会長ということで、皆様の足を引っ張らないように頑張りたいと思いますので、できるだけ自由な発想で、終わった後であれ言いたかったなというのがないよう、ぜひこの場で言ってもらえればありがたいなと、今日ばかりではないのですが。それから、できるだけフレンドリーな感じで言ってもらえるとありがたいなと思います。よろしくお願いします。

(副会長)

私も本当にわからないことだらけなので、意見を皆で出しやすい空気の中でやりたいなと思います。よろしくお願いします。

## 5 議事

### (1) こどもたちの未来を考える協議会の進め方

本協議会の概要について、下記のとおり説明を行った。

- ・目的：再編対象校の地域住民、児童の保護者及び未就学児の保護者等を委員として、こどもたちの未来を第一に考え、地域主導で学校再編の方向性を協議する場である。
- ・協議内容：①学校再編に関する方向性、②その他学校再編に関し必要な事項
- ・開催回数、期間：回数は3～5回程度、期間は半年～1年程度※ただし、協議会の進捗状況によってはこの限りではない。
- ・進捗状況の周知：協議会ごとの内容をまとめた「こども協議会だより」を作成、市のHPへの掲載や地区への回覧を実施する。
- ・協議の終了：方向性が決定したら、意見書を作成し、意見書の内容が決定した段階で協議を終了する。また、協議会で結論が出ずに長引く場合は、協議を再開するめどを決定した上で、一旦協議を終了する。
- ・意見書の提出：決定した意見書は、会長・副会長が教育長に提出する。
- ・協議会終了後の流れ（統合する場合）
  - ①代表者会議・・・統合を行う学校の代表者同士で統合時期等を決定する。
  - ②統合準備委員会・・・①に教職員を加え、学校の統合に関する具体的な事項を決定する。
- ・会議の公開：会議は原則公開とする。  
(意見・質問等なし)

(2) 上井出小学校の再編に関する教育委員会からの提案

現状と課題（学校再編の必要性）及び学校再編をすることによって得られるメリットを説明したのち、西富士中学校区の小学校を1校に集約する案を提案した。

（会長）

今回の資料は意見交換会の時と大体同じですか。

（教育総務課総務係）

意見交換会の際は、特に児童生徒数の推移等については掲載させていただいておりましたが、今回改めて再編の必要性というところを確認したいため、現状と課題、それから、再編されることによって得られる効果というのは今回初めて出させていただいた部分でございます。

（委員）

当面は複式学級が解消されるという話だったのですが、当面というのはどのくらいでしょうか。

（教育総務課総務係）

6ページにございますのは、0歳までの要は生まれたこどもの数をもとに作った数字となります。この先まだ生まれてないこどもに関してちょっと数がわからない部分がございますので、当面の間というふうに言わせていただきました。

（委員）

前の意見交換会で大きな地域での統合という話が出ていたと思いますが、そこは教育委員会としてはあまり考えていないのでしょうか。

（教育総務課長）

もう少し大きな括りでというところで、数的な部分については把握しています。例えば、今はこの西富士地区がこれくらいで、例えば北山も含めるとこれくらいだよという、数的なものはありませんが、いきなりそこまでのというのはなかなか難しい中で、今こういうような状態でやらせてもらっているのですが、来年度、再編に関する計画を立てる予定でございます。その中で、その先を見据えたような計画が示されるかなと思っているのですが、教育委員会としましては、先ほど提案させてもらった西富士中の中で統合を考えることによって、当面複式が解消できると。それをやっている中で、来年度出た計画に基づいて、もう少し大きな括りにという話になれば、そういった方向に進むのかなと今そんな状況でございます。

（委員）

西富士中学区で考えているという話の中で、あまり詳しくないのですが、人穴小学校は小規模特認校制度をやるとなっているけど、人穴ないし白糸にももうこのようなはなしをしている状況ですか。

（教育総務課長）

今、委員おっしゃったように来年の4月から人穴小学校については、小規模特認校をスタートしようと募集もかけて、何名かが通うなんていう話になったのですが、人穴小学校の保護者の方や地域の人に話しているのが、一旦はすごく地域の活動も結構前から

ありまして、今回それに至って今そういう状況なのですが、それが当然うまくいって、今、複式がありますが解消されるようなことであれば、当然その継続は考えるのですが、そうでなかったときには、今、上井出小や白糸小で出ているような話と同じように最終的に小規模特認校をやっても、あまり来なかった、については西富士にというようなところでは話はしております。

(委員)

上井出の方は意見を見てみても、小中一貫の形でというような意見が出ていますが、白糸の方はいかがでしょうか。

(教育総務課長)

白糸についても、やはり上井出と同じように複式は避けたいと思う者はすごく思っています。それから地域の方も思っております、特に必ずしも西富士中に一つというところの話だけではなくて、例えばですけれども、上井出小が白糸小に来るとか、白糸小が上井出小に行くなんていう話も出ております。ですので、必ず西富士中に皆が行くからという意見も当然あるのですけれども、今ある小学校の施設をまず活用したらなんていう意見もあります。

(委員)

一般的な資料のまとめ方として、メリットばかりは書いてありますけど、デメリットというところでも示してもらいたい。それから、設備も良くなりますと書いてありますけど、その中身がわからない状況もあるし、実際の移行期の中ではまだまだやはり校舎に課題があるけど移行しちゃおうという考えがどこかで出てきたりすると、移行するときに大変な思いをすることもあると思うので、今ある課題やデメリット的なものもこういう資料の中で本来まだ考える余地がありますよというようなまとめ方もある程度こういう議論の中では出されていた方が、その将来の工程表を書くときに議論しましょうと、そういう話題にちゃんとつながっていくような形になりますので、それは、後ほどのステージである程度方向が決まったら、先生方との話し合いだとか、そういったところで議論する予定になっていますからとかそういったものが見える形にしておいた方が、話としてはスムーズに先に進むのではないかなと、意見としては思いました。

(教育総務課長)

おっしゃるとおりだと思います。先ほど申し上げました白糸小が上井出小に行く、上井出小が白糸小に行く、西富士中に皆が集まる、いろいろな意見があると思うのですが、そうなったときのメリット、デメリットがあると思います。そういったアイデアを示させてもらって、何が一番最適なのかということ、次回以降の中で話ができればと思います。ありがとうございます。

(委員)

西富士中に集まるということは、小中一貫校という捉えでよろしいでしょうか。

(教育総務課長)

そうですね。

(委員)

それに賛成なのですが、どれくらい小中一貫校になりそうな可能性が委員会としてはありますか。

(会長)

小中一貫校は、中学校の先生が小学校に来て面倒を見てくれたりとか、一緒に箱にいるメリットはどの程度なのかなという感じだと思いますが、せっかく一緒にいるから別々に見ているなら意味がないというような感じもあるので、そういうのは井之頭とかそうですね。中学校の先生が小学校に行って見てくれたりとかしてくれているのですが、まだわからないと思うのですが、そういうのを考えているのかなというところでどうでしょうか。

(教育総務課長)

具体的にそこまではわかりませんが、会長おっしゃったように、小中一貫になれば、他市の状況を見ますと、やはりお互い建物の中に一緒になっているというところがあるものですから、もし西富士中というところになれば、当然教室がいろいろあるのですけれども、そもそも中学校自体が中学生用に、例えばトイレも中学生になっていますので、小学校一年生が来るようになれば、そういうトイレの改修もしなければならなかったり、例えば特別教室でいうと、机の大きさも違いますので、そういった改修も出てくるのかなと思います。当然、どこかに一つとなれば課題も出てきますので、先ほど委員もおっしゃったようなそういったメリット、デメリットを示しながら、皆さんがどういう統合が一番いいのかななんて考えていただければと思います。

(委員)

中学校の先生が小学校に行って専門的な知識を教えてくれるという小規模ならではのそういった教育ができる可能性があるのではないかと思います。

(委員)

富士宮市も地域性がいろいろあると思うのですが、そういった中でやはりこういったことについて他市というか、同じ県もしくは県でなくてもいいのですが、他のところで日本中で人が減っているという、特に地方はそういう状況になっていると思うので、こういった形でうまくまとめて、非常に良い成功例がありますとか、そういった事例的なところを出して、安心してください、こういう形でうまく進んでいますよとか、そういったものもお示しするというのも非常に、この委員の中での意見が出やすい環境になると、私は進め方の話をしているのですが、そういった形も必要かなと思いますので、また何かいい機会があったら、それを示していただきたいと思います。

(会長)

他にいかがでしょうか。何か気になる点とか全然このことでなくてもわからなかったことがあればお願いします。

(委員)

今の話だと、西富士中学校に機能を持つてくるという話ですか。

(会長)

まだそこまで決まっていなくて、統合するかどうかというところで、それだったら西富士中に持ってこようみたいな意見もあるということで、別にそうしろというわけではなくて、それをみんなで今から考えていくということなので、その結論ありきではなくて、もしそれよりいい方法があったらみんなで話し合えればいいかなという。

(委員)

私は統合するという話を聞いて、白糸小か上井出小学校に移るのかなと思っていたので、今西富士中という話を聞いて、そういうのもあるんだと思いました。校舎が全体的に新しい校舎じゃないんですね。多分そういう統合とかも考えて、簡単に工事とかしないんだらうなって思いますが、そういう安全性とかはどうですか。

(会長)

今の御意見で、多分西富士中学校は僕らがこどもの頃にはもう当然あったと思いますが、そういうのでリフォームしていると思うんですけど、建物をこれから長く使っていくのを考えてはいるのでしょうか。

(教育総務課長)

5ページをご覧ください。長寿命化工事というところで、令和4年に西富士中はやっておりますので、これについては、ある程度公共施設を70年ぐらい持たせたいよというところの中で、天井の雨漏りを防止するとかそういった耐震とは別で、もう耐震工事は終わっています。長くその建物を使ってこうよという工事をしたばかりですので、経過年数は経っていますが、この工事をすると、大体15年前後は持つようなところになっていきますので、そこは安心してほしいとは思うのですが、先ほど私ちょっと申し上げたように、その施設面でトイレとか、教室の関係というのが当然出てきます。それでも今委員おっしゃったように、例えば、白糸が上井出に行く、上井出が白糸に行くとなったときには、そもそもが小学校なので、そういう改修がなくなって、どちらかというとスクールバスになるのかその辺はわかりませんが、そういう施設の改修という意味では、そちらの方が費用的にはかからないかなとは思いますが、先ほど委員が言った小中一貫教育、こどもの教育となると、やはり西富士小中一貫の方が教育的には、そこまで細かいことはわかりませんが、先ほど言ったメリットデメリットが両方あるかなと教育委員会としては思っております。

(会長)

細かい部分の質問ですが、この生徒の推移のところ、西富士中学校のところ、令和13年に65人となっておりますが、今と同じくらいの人数がいるということですか。初歩的な質問で申し訳ないのですが、今と同じくらいにずっといるのかなと見えますけど、小学校は30人ずつしかなくて、足して60人しかいないけど、中学校は半分しかいないはなので、足したって30人くらいしかならないかなと思ったけど、どういう計算になっているのかなと思いました。

(学校教育課参事)

3ページの表の人数につきましては、例えば、小学校から中学校、例えば公立中学校

だけでなく、例えば私立の中学校に通ったり、特別支援学校に行ったりとか、あるいは、そういったことがあるものですから、この数というのはその地域に住民票がある方の数を使っています。

(教育長)

6年から卒業して中学校に入っているのです、在校しているこどもの数は少なくとも、その数が中学校数に入ってくるということになります。

(会長)

そうすると、1学年20人いるという計算になるということですよ。

(教育部長)

その年度が足してイコールではなくて、その上の年代の子が中学校に来ているので、こういう数字になるという形です。

(教育長)

だから、この後はもう中学校もかなり減って、小学校と同じような形で推移していきます。

(会長)

そうすると中学校もまた統廃合の話が出てくる可能性もきっとあるということですね。令和13年度以降あまりに減りすぎるとということですね。

(教育総務課長)

皆さん御存知かと思いますが、高校の統合の話ですが、富士宮市の高校が令和15年度には4校から2校にという話もあります。そんなところからもどうしても高校がそうなるイコール小中学校もあります。小中学校だけではないと思うのですが、保育園にしてもそうだと思いますし、公共施設全般で再編というのは進めていかないといけないことだと思います。

(副会長)

すごい強烈な反対意見がないという仮説で進んでいった場合、これはどれぐらいに実現しそうですか。

(教育総務課長)

例えば、今回、上井出と白糸で両方が本当に良かった場合に、令和10年4月なのかもしれないですが、令和11年4月の方が現実的です。

(教育長)

一番早いのはもう、例えば白糸小が上井出小にくるよという話になれば、もう施設も変わらずに、学区の見直しだけで、それが一番早いです。逆もしかりです。ただ、西富士中学校の一つにまとまりましょうということになると、先ほど言ったように施設的なこともあったり、いろいろ教職員の配置だとかそういうものも含めると、単純にどこの小学校に集まるよって、名前はそのままというのが一番ですけど、一緒になったことよって、西富士小学校にしましょうかとかというふうに変更になるとまた少し時間がかかると思います。何年というのが、例えば校舎をもう少し改築するとなると、財政的な問題でこちらがどんどん進めたいというのがありますが、そちらの手順を踏ん

でということになると少し時間がかかります。

(副会長)

そうなる、例えばステップ1として小学校の白糸小と上井出小でとりあえず考えてこうみたいところでスタートして、人穴小が入る入らないとかが選択にまた入ってきて、それがうまく運用できているとなったら、西富士中の小中一貫のシミュレーションというか、このくらいお金がかかる、できるのがこのくらいというのが多分出てきて、それにはこう進めなきゃいけないというのが出てくれば、納得するスピードといいますか、とりあえずやれることはそっちという認識でいいですか。

(教育長)

段階を踏んでということ、皆さん合意してその先に例えば西富士小中学校というのがある中で、そこまで時間がかかっちゃうから、小学校でというような話で皆さんが合意すればということですので、こちらとしては出た意見としてスピード感をもってということであれば、できるだけ早く対応する努力はしてまいりたいと思います。

(副会長)

いかがでしょうか。西富士中に小中一貫校という発想がなかったものですから。小中一貫校の良さが何かあると思うのですが。

(委員)

教員をやっている、富士市の松野学園のことも聞いて、小中学校の全学年が一つになっていて、そこに小学校の教員、中学校の教員が授業を行ったり来たりやっているのを、そこで働いてはいませんが、いろいろな人から聞くので、初めてから実施するまでは結構5年ぐらいかかっている、それぐらいの期間かかるなと思うと、そのころには卒業しちゃうなとか思うと、そこら辺が難しいところで、また統廃合、また統廃合というようになるなら大きな括りの方がのちのちにはなんて思います。

(会長)

大きな括りというのは北山まででしょうか。

(委員)

西富士です。後々は北山までということですかね。

(会長)

いずれかはなるかもしれないですね。その次の世代のときには、先ほどまでの話ですけど、結局上井出か白糸のどちらかによるとなったときには、両方の協議会が同じ意見にならないと、そうならないということですよ。上井出は白糸に来てって言うし、白糸は上井出に来てって言うし、そのすり合わせがということですよ。

(委員)

市側は丁寧な話し合いをしないとという意識があって、順番に説明して行って合意形成しないといけない。

(委員)

白糸か上井出のどちらかに持ってくるという話で、やはりこれになると、例えば白糸に上井出を持っていく、そうすると上井出の方々からはなんだと言って、逆に白糸から

上井出となるとなんだという意見が区民の方から出てくる。ですから、そういう不満をなくすというのはおかしいですけども、一番いいのは小中一貫の西富士中があるものから、いずれは、上井出小の子も白糸小の子も卒業すれば、西富士中に行くわけですから、小中一貫校というのは個人的にもいいかなという感じがします。私も松野学園を見に行ってきた、いいなと思いました。専門の先生がいるということは小学生の教育にとってもいいというふうに感じました。複式というのは個人的には大反対ですので、もちろんメリットもありますけど、デメリットは複式の場合は多いです。それをなくすために、こういうようにということで意見をいただければと思います。今、他の市を見ても小中一貫校が多いですね。全国的に見ても、関西の方に議会で行きましたが多いです。もうそういう時代ですよ。ただ、これからますます下の方も減りますので、今そうやって例えば西富士中の小中一貫をしますよといっても、また何年かすれば下の方とまた統合するような形になると思います。今の時点では、私は西富士中学校を母体とした小中一貫校がいいのではないかと思います。

(会長)

僕も 35 人だとやっぱり多いと思います。35 人いると多分隅々この方まで目が行き届かないというのが経験からしてあって、かといって、5 人とかだと練り合いがちょっとうまく練り合いきれないのかなとか、そこの発展がちょっと難しいのかなという部分が過去の経験からあって、やっぱり真ん中辺りくらいがいいのかなという感じがあるので、今のままだと多分今度の小学校 1 年生が 6 人だから、もうひと桁も半ばぐらいになってしまうので、そうするとだんだん目が行き届くというのはいいけれども、そうすると、将来的にだんだん練り合って思考を高めていくといったときに、物足りなさが出てくるような個人的な意見があります。またちょっとこの場を、あと 2 回 3 回重ねるうちに、より良い方向に持っていければいいなと勝手にまとめてしまいましたけれども、もし、言いたいことがあればありがたいと思います。

(委員)

複式学級というのは何人からなるのでしょうか。

(学校教育課長)

2 学年をあわせて 13 人以下の場合、複式学級になります。小学校 1 年生を含む場合は、6 人以下でなります。

(副会長)

西富士中の小中一貫がいいんじゃないかと思っているので、西富士中で小中一貫が実現できる見通しみたいなものを教育委員会の方に作っていただきたいと思います。教室のサイズがこのぐらいで、小学校 3 校が集まって暮らしていくにあたって施設はもうちょっとこれを増やさなければいけないとか、何かシミュレーションみたいなものを出していただけるとありがたいと思います。

(会長)

できれば次回、そういうサンプルが簡単でいいので作っていただければありがたい。

それから、すごい申し訳ないのですが、できればこういう資料を作ってもらってあり

がたいんですけど、2、3日にもらえるとありがたいと思います。ぱっと急に見て何か質問どうですかと言われても、多分頭の中でぐるぐる考えてしまうので、メールでもいいんですけど、ちょっと一読だけでもして予習できると、ありがたいかなという感じはしました。この間、観光基本構想のときも言ったのですが、毎回1週間ぐらい前に資料をもらっているものですから、できれば大変かもしれませんが、送ってもらえるとありがたいと思います。

その他どうですか。よろしいですか。また今日出たような話をできれば保育園の保護者の方とか、PTAの方で何か機会があって話をしてもらって、次のときにこういう意見がありましたみたいなことをまた言ってもらえると、保育園の二人の肩にかかってしまうと思うと、責任が重くなってしまうので、いろいろな方の意見もちょっとリサーチしてきてもらえれば、ちょっと気が楽になるかなと思いますので、ぜひまたよろしくお願ひしたいと思います。

以上で話の方は終了させてもらって、進行を事務局の方にお戻しするというところでよろしいでしょうか。それでは、ありがとうございました。

## 6 次回の予定

第2回の日程を5月下旬とし、後日調整することとした。また、時間帯は午後7時、場所は上井出区民館とすることに決定した。

## 7 閉会

(副会長)

皆様、本日はありがとうございました。本日頂いた御意見を踏まえて、上井出小学校のこどもたちにとってよりよい方向性になるよう、今後も活発な御意見をよろしくお願ひいたします。以上をもちまして、第1回上井出小学校のこどもたちの未来を考える協議会を終了いたします。ありがとうございました。